

生活を愛する人とともに116年

婦人之友

1

January
2019

その「モノサシ」
変えてみませんか？

座談会

地球のモノサシ

福岡伸一（分子生物学）

梶谷宣子（染織品修復保存）

藤井一至（土壌学）

新連載

はじめよう

「プラスチックフリー」ライフ

フォトエッセイ 本橋成一

時の手ざわり

体にやさしいお正月膳 村岡奈弥

「不便だからこそ、
よいモノやコトをデザインする
方法論を研究しています」



川上浩司

(京都大学特定教授)



目盛りが素数のところしか無い不便な「素数ものさし」。どんな長さの線でも、素数と素数の間でひけるかも。1cmの線なら、3と2の間、2cmなら5と3とか。今では定番の京大グッズに。



撮影：竹中稔彦

不便だから良かったことを「不便益」と呼んで、探し回っています。その時のベースにするのが「不便⇄便利」を横軸に「益⇄害」を縦軸にした、2次元平面です。横軸は「手間がかかり、頭を使わねばならない」ほど、左(不便方向)へ。縦軸は、そのような便利不便にかかわらず「いいこと」があれば、上(益方向)に。不便でいいことには、自分で手間をかける達成感や、行きにくさもたらず秘境感、自分が操作しているという安心感など。この縦軸が、私が大切にしている「ものさし」です。このものさしで測ると「良く」なるもの、つまり不便だからこそ、良いモノやコトをデザインする方法論を研究しています。

京大デザイン学リーディング大学院特定教授。
著書に『不便益という発想』他。